

令和7年12月1日

厚木市長 山 口 貴 裕 様

厚木市スポーツ推進審議会

会長 小 泉 綾

(公印省略)

厚木市スポーツの聖地づくり基本計画（厚木市スポーツ施設整備基本計画）原案
について（答申）

令和7年10月14日付けで諮問のありました厚木市スポーツの聖地づくり基本計画（厚木市スポーツ施設整備基本計画）原案について、慎重かつ活発な議論を重ね、本審議会の意見を取りまとめましたので、別紙のとおり答申いたします。

答 申

厚木市のスポーツ施設を取り巻く環境は、市民のスポーツへの関わり方が「する」、「みる」及び「支える」へと多様化する一方で、高度経済成長期以降に整備された多くの施設で老朽化が進行している。今後、施設サービスの充実と適切な維持管理を両立していくためには、従来から維持してきた既存施設と、これからのまちづくりにおいて求められる新たな施設整備との間で、限られた資源を最適に配分するリデザインの視点が求められる。

厚木市スポーツの聖地づくり基本計画原案については、市民一人ひとりが身近にスポーツを楽しむ、支え合い、熱気や感動を分かち合うことのできるスポーツ環境の実現を目指した、まちづくりの新たな価値創造に向けた指針である。とりわけ、老朽化が進む既存施設の再編と、厚木市に新たな付加価値をもたらす新規施設の整備を一体的に進めようとする姿勢は、国が掲げるスポーツ政策や公共施設マネジメントの潮流にも整合し、社会情勢の変化を踏まえた上で、厚木市が「スポーツの聖地」として新たなステージに歩みを進めるための極めて重要な視点である。

各スポーツ施設の方向性の示唆に当たっては、厚木市のスポーツ施設を取り巻く現状及び課題の分析を踏まえ、スポーツ庁のガイドラインに基づく評価手法を活用して、各施設の現状を客観的かつ論理的に捉えている点が高く評価できる。これにより、市民にとっても理解しやすく、今後の方針決定の透明性と納得性を高めるものとなっている。

本答申の作成に当たっては、スポーツ推進に関して識見を有する12人の委員が、それぞれの専門知識と経験、そしてスポーツを通じた新たなまちづくりへの強い思いを持ち寄り、慎重かつ活発な審議を重ねた。その結果、本審議会としては、厚木市スポーツの聖地づくり基本計画原案について、おおむね妥当なものと判断した。

なお、本答申で示した意見及び本答申に示していない本審議会での審議過程における意見及び要望等については、今後の施策検討の際にその趣旨を可能な限り尊重されたい。あわせて、厚木市におけるスポーツを通じた新たなまちづくり、すなわち「スポーツの聖地」の実現に向けて、市民や関係団体との丁寧な対話を重ねながら、理念である「スポーツをする人、みる人、支える人、みんなが楽しめる環境づくり」を着実に推進されることを強く要望し、答申とする。

1 全体

厚木市スポーツの聖地づくり基本計画原案は、スポーツ庁が示す「スポーツ施設ストック適正化ガイドライン」に基づき、既存施設の評価から各施設の今後の方向性を導き出すとともに、新たなスポーツ施設の整備など、厚木市に付加価値をもたらす新規施設整備の方向性を示すことで、まちの発展と持続可能なスポーツ環境の構築を目指すものである。「する」、「みる」及び「支える」スポーツを一体的に推進し、市民が誇りをもてる「スポーツの聖地」の実現を目指す方針は、本市の今後のスポーツ行政の方向性としてふさわしいものと評価する。

なお、多くの市民に理解しやすい計画とするため、計画内における厚木市の現状を示すグラフのデザインや、「PPP/PFI」などの専門用語への注釈など、市民と取組内容を共有する上での工夫についても検討されたい。

2 スポーツ施設を取り巻く現状及び課題

市内のスポーツ施設は、多くが昭和期に整備され、今後は老朽化や安全性の課題を抱えるとともに、河川区域内立地や敷地制約などにより、機能拡張や改修が困難な施設も見られる。また、利用者の減少や管理経費の増大など、維持管理上の課題も顕在化している。一方で、日常型スポーツ施設の管理者を対象としたアンケート調査では、約8割の管理者が「身近な運動の場を継続してほしい」と回答しており、まちづくりにインパクトを与える新規施設の整備に向けた期待が膨らむ中、日常型スポーツ施設の維持・充実についても強く求められている。このように多様化するスポーツ需要に対応しつつ、限られた財源の中で持続可能な施設配置を実現することが、今後の取組に当たっての重要な課題である。

3 スポーツ施設整備の検討の視点

厚木市には、本格的な競技スポーツが可能な施設から、地域住民の交流や健康づくりなど、地域コミュニティの形成を担う施設まで、多様なレベルでスポーツに親しむことのできる施設が点在している。これらは、市民一人ひとりの生涯にわたるスポーツ活動を支えるとともに、地域のつながりや活力を生み出す、かけがえのない地域資源である。

厚木市スポーツの聖地づくり基本計画原案にあるとおり、今後の効率的な運用を図るためには、各施設の役割と位置付けを明確化し、施設間での機能補完と相互連携を通じて、より高いシナジーを発揮していくことが求められる。

既存施設を安全に維持管理することに加え、スポーツ観戦を通じて得られる熱気や感動とい

ったリアルな体験価値を、市民を始めとする多くの人々に提供することは、今後の行政が担う新たな使命の一つとなり得る。「みるスポーツ」の振興は、交流人口の拡大や地域経済の活性化、雇用機会の拡大など、地域産業の好循環にも寄与するものであり、厚木市の新たな魅力創造に向けて、積極的な展開を期待する。

また、近年の気候変動等に伴い、台風や集中豪雨などの風水害が激甚化する中、河川敷などの浸水リスクを抱える区域に立地するスポーツ施設については、防災上のリスクと維持管理のコストなど、今後の施設再編の取組に当たっては、行財政の効率化などに加え、慎重かつ着実に検討を進めることが重要である。安全性の確保と行財政の効率化を両立させることこそ、持続可能なスポーツ施設整備における重要な視点である。

4 スポーツ施設の方向性について

既存施設については、国のガイドラインに基づく評価を踏まえ、「維持」、「改善」及び「総量コントロール」などの方向性が整理されている。特に「総量コントロール」に分類される施設については、施設の廃止を含む可能性も示されており、利用者を始めとする関係者への影響が大きいことから、厚木市としての考えや取組の必要性について、丁寧な説明を尽くされたい。

また、幼少期から高齢者まで、誰もが身近に身体を動かすことのできる日常型スポーツ施設は、地域コミュニティの中心的な役割を果たす拠点である。利用者の減少や管理負担の増加といった課題を踏まえつつも、これらの施設は「スポーツの聖地」の基盤を支える重要な要素であることから、今後の検討に当たっては、関係者の意向も十分に確認しながら、持続可能な運営体制と活用の可能性について検討を深められたい。

新たに本庁舎敷地跡地に整備される多目的アリーナは、「みるスポーツ」の拠点として、極めて大きな期待が寄せられている。飲食、宿泊、観光など、周辺産業への経済波及効果に加え、災害対応力の強化やシビックプライドの醸成など、多様な社会的効果を生み出すことが期待される。厚木市の魅力を高めるシンボルとなることを期待する。

さらに、立地環境に課題を抱える施設や、機能の一層の充実が求められる既存施設については、「複合型のスポーツ拠点」として、集約及び再整備の検討を進める中長期的なビジョンが示されている。今後は、事業スケジュールや財源見通し、施策の優先度などを的確に整理し、市民と情報を共有しながら、計画的かつ確実な推進を図ることを期待する。